

# 算数科授業における思考の過程に価値を見出す子の育成

—非認知能力に着目した子どもの姿を引き出すことを通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

加藤 孝児

本研究は、算数科授業における学習観を「結果重視」から「思考過程重視」へと転換し、思考の過程に価値を見出す子どもを育成するための有効な手法を明らかにすることを目的とした。

近年、これからの時代に求められる資質・能力として非認知能力が注目されていることから、本研究では算数科における学びと非認知能力の関連に着目した。「ねばり強さ」「向上心」「共感性」の3つの非認知能力が授業でどのようにはたらくかを具体化し、それらを引き出すための手だてとして、①授業で大切にしたい価値観や理想の授業像の共有、②数学的な見方・考え方の可視化と価値づけ、③非認知能力にはたらきかける問い返し発問の3点を設定した。実践の結果、これらの手だての有効性が確認された。また、「失敗に対する柔軟的態度の尺度」および「思考過程重視の尺度」において有意な得点向上が見られた。

以上より、非認知能力に着目した教師支援は、思考の過程に価値を見出す子どもの育成に有効であることが示唆された。